



カテゴリ:その他

2026年1月21日

第25103号

本邦初、「外国免許特認」第一号が成田国際空港で誕生

～「国家戦略特区」による規制改革を実効化し、
高い安全品質で訪日6,000万人時代の空港オペレーションをリードします～



JALグループの空港グランドハンドリング業務を担う株式会社JALグランドサービス(以下「JGS」)において、2025年12月1日から成田国際空港(以下「成田空港」)で開始された空港内の運転資格の制度改革^{*}に基づき、本邦初となる「外国免許特認」第一号取得者2名が誕生しました。

本制度は、JALグループと成田市が国家戦略特区を活用した規制改革を共同提案したことがきっかけとなり実現したものです。これにより、従来は約6か月を要していた非ジュネーブ条約締約国出身者による日本の運転免許取得・切替を行わずとも、独自の高密度な教育プログラムを完備することで、厳格な安全基準を担保したうえでの「早期戦力化」が可能となりました。

JALグループは本制度の提案者として実運用をリードし、多様な人財が即戦力として輝く新たな空港オペレーションモデルを構築することで、訪日客6,000万人時代に向けた航空インフラの維持・発展に貢献してまいります。

^{*}エアニュース「【関東】成田市とJALグループの提案により、空港内の運転資格の制度改革が実現」

<https://press.jal.co.jp/ja/areanews/release/202601/009211.html>



■本制度活用の意義と成果

1. 本邦初の実運用:提案から実装までをリード

JALは成田市と共に、外国人材の活躍を阻む「運転免許の壁」を打破すべく、特例措置を提案してまいりました。今回の第一号誕生は、2030年の政府目標である訪日6,000万人時代に向けたグランドハンドリングの持続的発展に向けた新たな一歩となります。

2. 空港人材の確保:待機期間の短縮による早期戦力化

これまで非ジュネーブ条約締結国出身者は、入国後の運転免許切替において試験受験まで約6ヶ月程度待機期間があり、その間は運転を伴う業務に従事できない「空白期間」が課題となっていました。本制度の活用により、この待機期間がなくなること、空港内車両走行ができるまでの期間を大幅に短縮することが可能となります。

3. 高い安全品質の維持:高密度な教育プログラムによる厳格な安全基準

JGSが長年培ってきた安全教育ノウハウと、自動車教習所による厳格な運転能力評価を組み合わせた独自の育成スキームにより、高い安全品質を維持しながら、意欲ある人材を最短期間でプロフェッショナルとして現場へ送り出し、拡大する航空需要を確実に取り込める体制を構築してまいります。

- 社内運転資格認定者による厳格な運転スキル評価の実施
- 空港内の事故特性をふまえた、危険予知トレーニング
- 航空機および地上支援機材(GSE)の特性を加味した、車両操作スキル教育

4. 多様な人材の活躍:DEIの加速

国籍を問わず、意欲ある社員が早期に責任ある業務に就ける環境を整備したことで、現場の機動力向上と既存社員の負担軽減を実現します。多様な個性がプロフェッショナルとして現場を支える姿は、職場全体のモチベーションを向上させ、JALグループが目指すDEIを加速させています。

■今後の展望

「成田モデル」を他空港へ横展開

成田空港で確立したこの運用ノウハウを、同様の課題を有する全国の空港へ順次波及させ、JALの航空輸送ネットワークを支える強靱な体制を構築します。

「世界に選ばれる空港」を支える人材基盤の構築

単なる労働力不足の解消に留まらず、高度なスキルを持つ外国人材が「日本の空を支えるプロフェッショナル」としての誇りを持って働けるステージを拡大します。多様な人材による安全・高品質なグランドハンドリングこそが、世界中のお客さまに選ばれる日本の空港サービスの源泉になると考えます。

JALグループは、性別、年齢、国籍、障がいの有無に関係なく、多様な人材が共に働き、輝ける環境を整えるとともに、空港におけるオペレーションをこれまで以上に安全かつ高品質に進化させてまいります。

以上